

年 組 名前:

全国の昔話 甲州弁で再話



活動について打ち合わせをする山梨むかしがたりの会のメンバー
＝山梨・加納岩公民館

会は約25年前に結成。現在は、内外の民話を語ってきた。甲州市や山梨市などで約40人が、メンバーが語る民話は、書籍活動している。多くの人に甲州 などとして残されている民話を、弁に触れ民話を楽しくでもお 収集したもの。書き言葉を映東うと、学校や福祉施設などで県 地域を中心とした甲州弁の語り

に直し、作品のテーマや楽しさを伝える「再話」に取り組んできた。月に1度開く研修会で実際に発表し、メンバーが意見を出し合いながら作品にまとめ、100話ほどが完成していた。

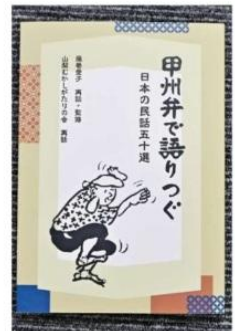
今回の民話集には県内の伝説「長源寺の蟹坊主」「利右衛門稲荷」、全国の昔話として「笠地蔵」「わらしべ長者」など50話を選んで収録した。「定番の民話を選び、手にとってもらいやすくした」(メンバー)という。甲州弁を子どもにも分かりやすくしようと、漢字のルビは発音に忠実に振り、甲州弁独特の格助詞として使われる小さい「ん」も表記した。

民話集の出版は10年以上前から計画していた。民話はその地域の庶民が語り伝えてきたことが多く、藤巻代表は「その土地の先祖、文化と共感を持つことができる。民話に込められた思いを山梨の言葉でも味わってもらいたい」と話す。

本は800部作製。販売はせず、県内の公立図書館や小中高、大学などに寄贈する予定。

むかしがたりの会 民話集出版 図書館に寄贈「次世代に」

甲州弁で民話を語り継ぐ活動を行っている山梨むかしがたりの会(藤巻愛子代表)は、民話集「甲州弁で語りつぐ 日本の民話五十選」を出版した。県内の民話だけでなく、全国の昔話を甲州弁で再話した作品をまとめた。本は県内の公立図書館や学校図書館に寄贈する予定で、会のメンバーは「民話や甲州弁を次世代に伝えていければいい」と話している。(武田寛明)



出版した「甲州弁で語りつぐ 日本の民話五十選」

(2026年6月26日付 山梨日日新聞 21面)

問1 山梨むかしがたりの会が出版した、民話集の題名を教えてください。

.....

問2 民話集には、どのような作品が収録されていますか。

県内作品 ⇒

県外作品 ⇒

問3 民話集では、甲州弁を子どもにも分かりやすくするために、どのような工夫がしてありますか。

.....